

群馬県立しらがね特別支援学校 学校評価一覧表① (令和3年度版)

(様式1)

羅 針 盤			グランド デザインの 具体的項目 ----- 分掌等	方 策	第1回点検・評価			第2回点検・評価			
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策	
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	①保護者の80%以上が、たよりや学校のホームページから学校の様子がよくわかると感じている。	地域 ----- 教育課程管理系	○webページの掲載内容に係る分掌担当者が2週間毎にWebページを確認し、タイムリーでわかりやすい記事の更新に努める。	A	C	学年便りをとおしてwebページについて紹介し、学習や行事の様子、進路に関する情報等をwebページ上で積極的に提供していく。また、webページの更新情報をメール連絡網で保護者に知らせるようにする。	A	A	webページに、学習や行事の様子等を、写真を取り入れながら掲載し、文章でわかりやすく伝える。メール連絡網を利用して、更新情報を保護者に通知し、URLを添付することにより、直ちに見られるよう工夫する。	
		②PTA活動を年3回実施し、参加率が70%以上である。	地域 ----- PTA	○本部役員と連携して行事を運営する。また、活動時の様子をwebページで積極的に発信する。特に、しらがね祭については事前準備や当日企画等、項目を複数設定し、参加しやすくする。	A	B	PTA総会が書面開催であったため、1学期は、発信の状況が書面によるものが中心であった。2学期以降は、webページで活動の様子を発信していく。	A	B	書面によるお知らせだけでなくwebページも利用してより一層の情報発信に努める。これまでの働きかけを継続するとともに活動の様子を映像などで発信していく。	
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	③保護者の90%以上が「個別の教育支援計画」の内容について、関係機関と共有できる内容となっていると感じている。	笑顔 ----- 運営・対外系	○保護者面談や連絡会議において、学校と家庭や関係機関とともに生徒の長所を伸ばすことを中心に話し合いを進め、支援内容について合意形成を図る。	A	A	保護者から生活の様子や願い等を丁寧に聞き取り、生活地図を作成するとともに、学習の様子や成果等を伝え、支援内容を見直し、より良いものにしていく。	A	A	児童生徒の課題を明確にしながらか、支援内容の見直しを図っていく。運動祭で、一斉に学園生保護者面談ができない場合は、別日に個別に実施する。	
		④交流及び共同学習実施の意義や交流形態について、保護者や関係機関の80%以上が賛同している。	友情 ----- 運営・対外系	○交流相手と話し合い、間接交流も含め、安全な交流形態を選択する。交流の意義について再確認し、継続して交流できるようにする。	B	A	新型コロナ感染対策のため、学校外の人との交流が難しい状況であったが、進捗状況について教職員間で情報の共有を図りながら実施に向けて検討を行った。交流の実施方法について、相手校や保護者の理解を得ながら、継続して交流を進めていく。	A	A	高等部では、感染症対策を行いながら、藤岡北高校との直接交流を行うことができた。西邑楽高校音楽部から、心のこもったお手紙をいただいた。伊勢崎三中のギターマンドリン部は、事前に曲のリクエストを行い、生徒の好きな曲を入れたDVDを作ってくれた。中学部では、伊勢崎三中の2年生とリモートで交流を行った。	
	II 地域の特別支援に関するセンタースタッフ的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	⑤地域の幼保小中学校等から年間200件の要請を受けて助言・援助に当たり、担任の取組に改善が見られた割合が80%以上である。	地域 ----- 運営・対外系	○先生方の頑張りを認めるとともに、大まかな方向性を話し合いで確認する。その上で自信を持って指導改善できるよう助言する。	A	—	相談を受けた担任や学校のニーズをよく聞き取り、丁寧に対象児童生徒の実態を伝えるとともに、担任の意思を確認しながら支援内容を決めていく。	A	—	担任の支援方法を詳しく聞いた上で、困っていることを整理し、前向きに保育や教育に向かえるような支援を心がける。
			⑥地域の学校等で、60分ケース会議を含む研修会を実施し、指導の参考になった教職員が80%以上いる。	地域 ----- 運営・対外系	○教職員研修で、わかりやすい授業作りを提案し、特別支援教育の視点を取り入れてもらう。60分ケース会議の意義と効果について丁寧に説明する。	B	—	事前の打合せを綿密に行い、ニーズを詳しく把握してから研修を実施する。必要に応じて専門家を依頼し、スーパーバイズを受ける。	B	—	中部地区の特別支援コーディネーター向け研修会は、オンラインで実施した。研修会の内容も形態も、好評だった。
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導を行っていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑦個々の児童生徒のニーズに応じた教材教具(ICT機器の活用も含む)を工夫した指導・支援ができると回答する教員が80%以上である。	笑顔 ----- 研修部	○教材教具を工夫した実践事例などの情報(ICT機器等の活用含む)を収集し、研修を行い、授業改善につなげる。	A	A	引き続き、実践事例の紹介や実際にICT機器を活用して、授業場面や業務の改善に生かしていけるよう情報を提供していく。	A	A	授業の中でICTを活用することにより、どのように有効であったかをまとめるとともに引き続き授業場面に生かしていけるよう情報を提供していく。	
		⑧90%以上の保護者が「個別の指導計画」について、保護者の願いや児童生徒の実態に合った目標・内容となっていると感じている。	笑顔 ----- 学習指導部	○「個別の指導計画」についてわかりやすい表記と説明のもと、連絡会議や保護者面談で意見をいただき、必要に応じて加筆・修正する。	B	A	個別の指導計画の内容がより児童生徒の実態に合ったものとなるように、教職員間で検討したり、面談等とおして保護者の意見をいただいたりして、適宜加筆・修正を行っていく。	B	A	個別の指導計画の重要性を教職員が改めて認識し、児童生徒の実態に合ったものとなるように作成をしたり、スムーズな引継ぎができるよう準備を進める。	
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われ	⑨80%以上の教員が個別の指導計画を作成するため	笑顔 -----	○アセスメントから目標設定の仕方について、3観点別の評価			校内研修でアセスメントから目標設定の仕方、3観点別の評価につ			校内研修の中でICTを活用することにより、各教員がそれぞ	

	ていますか。	に校内研修が参考になったと感じている。	研修部	について教職員間で検討をしながら研修を進めていく。	A	A	いて取り上げ、教職員間で共通理解を図っている。引き続き、研修で取り上げ、進めていく。	A	A	れニーズに応じて研修を行うなど、新たな試みも取り入れていく。
		⑩「個別の指導計画」に掲げた目標の達成率が90%以上である。	笑顔 ----- 学習指導部	○アセスメントの結果を踏まえた目標設定やその手立て、評価となっていることを、担任間、学年、学部で計画的に検討し、定期的に目標を見直す。	A	B	年度当初に掲げた目標が、児童生徒の実態に合っているか定期的に見直しをして、積極的に追加・修正などを行っていく。	A	A	今年度の個別の指導計画の評価を見直し、今年度身に付いた力をもとに、次年度に児童生徒がどのような力を身に付くとよいかを検討し、次年度の担任に引き継げるようにする。
		⑪アセスメントに基づいて個別の指導計画の目標を設定したり、目標達成のために授業の単元や題材を設定したりして、よりよい授業づくりを務めていると回答する教員が90%以上である。	笑顔 ----- 学習指導部	○定期的に協議しながらアセスメントを作成し、実施に向けて計画的に教職員へ周知する。	A	A	年度末に行うアセスメント方法について、2学期中に教職員に研修を行うとともによりよい授業づくりへの情報提供を行っていく。	A	A	児童生徒の次年度の個別の指導計画の目標を設定する助けとなるように、年度末に行ったアセスメントを、次年度の担任に引き継ぐ。
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑫児童生徒一人一人の健康上の配慮や対応について、関係者の85%以上が情報共有できていると感じている。	元気 ----- 保健・安全部	○連絡会議や家庭訪問、行事等の保護者と話ができる機会を活用して、健康に関する情報を共有し、配慮や対応について共通理解を図る。	A	A	新型コロナ感染防止対策の一環で家庭訪問の中止や行事の縮小化が行われ、保護者と話をする機会が限られた。電話連絡や書面を通して保護者と密に連絡を取り、健康についてなど情報共有を図ることが課題である。	A	A	新型コロナ感染防止対策を家庭でも徹底してもらえるよう共通理解を図ると共に、職員間でも連絡を密にした。健康上の問題がある児童生徒の配慮や対応について学年や学部でさらに丁寧に情報共有することが課題である。
		⑬安全点検を全職員で毎月実施し、危険箇所改善率を95%にする。	元気 ----- 保健・安全部 事務部	○点検・危険箇所の報告が速やかに行えるように、朝会で呼びかける。また、危険箇所に関する情報を全職員で共有し、修理や改善等の対応について共通理解を図る。	A	A	丁寧な点検について職員に周知徹底を図った結果、職員の意識が高まり、危険箇所が随時改善された。さらに危険箇所に関する情報を教職員間で共有し、修理や改善策について共通理解を図ることが課題である。	A	A	定期点検を毎月行い、随時危険箇所の修繕が行われた。棟間通路の雨漏りも、工事が入り改善された。生徒が安全に学校生活を送れるよう、床の腐食など工事を必要とする場所の修繕が今後の課題である。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑭心肺蘇生法の講習会やアレルギー対応を含む救急対応訓練等を年4回以上実施し、90%の教職員が対応について理解している。	元気 ----- 保健・安全部	○想定できる場面について講習会や訓練を行い理解を深めるとともに、緊急時の対応について共通理解を図る。	A	A	心肺蘇生法やアレルギー対応を含む研修を年4回以上計画し、予定通り実施できた。継続的に講習や訓練を行い教職員の危機管理への意識をさらに高めることが課題である。	A	A	危機管理に関する保健研修を予定通り実施し、職員の意識を高めることができた。さらに、継続的に研修を積み重ね、全員の職員が実際の場面で迅速に対応できるようになることが課題である。
		⑮いじめの未然防止に向けた取組について、全ての教職員、保護者が満足している。	友情・元気 ----- 生徒指導部	○いじめ認知について教職員の共通理解を深める。あいさつ運動、教育相談週間)、なかよしアンケートを実施し、気になる事案には対策委員会に諮る。	A	A	望ましい行動を増やし行動化するための指導及びいじめへの組織的な指導の流れを全職員に共通理解を図る。いじめ防止対策委員会構成員の拡充したい。	A	A	教職員の意識向上とともに、いじめ防止ポスターへの参加等生徒自身がいじめ防止について考える活動を強化する。
		⑯危機管理マニュアルに基づいて緊急対応訓練を年間3回以上実施している。	元気 ----- 保健・安全部	○警察・消防等の専門機関と連携し教職員の危機管理意識向上を図る。また、危機管理マニュアルを充実させ、活用する。	A	A	新型コロナ感染対策を行いながら緊急対応訓練に取り組んできた。今後も専門機関と連携し、避難経路の再確認や、訓練の流れの確認を行いながら緊急対応訓練に取り組んでいく。毎月の安全点検日に合わせて、危機管理マニュアルの確認を呼びかけ、緊急時に素早く対応できるように備えていく。	A	A	緊急対応訓練を実施し、有事の際の職員及び児童生徒の動きを確認した。いくつかの課題も見つかり、危機管理マニュアルを修正したが、それを職員間で共通理解を図り、実際の場面で生かすことが課題である。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑰キャリア教育に係る授業を80%以上の教員が、年間3回以上行っている。	地域・笑顔 ----- 進路指導部	○キャリア教育全体計画を配付し、キャリア教育の視点に立った授業を実施し、他学部へ発信し共有する機会を設定する。	A	B	キャリア教育全体計画を配布し、キャリア教育の視点に立った授業を実施できている。他学部への発信、共有については今後の課題である。	A	A	各学部でキャリアパスポートをさらに検討し、キャリアパスポート活用した授業実践を行うとともに、他学部への発信、共有を進めていく。

9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	⑱学校からの進路に関する情報について、保護者の95%以上が満足している。	地域 ----- 進路指導部	○進路だよりの内容を充実させ、webページにも速やかに掲載する。また、進路先や関係機関との情報交換を計画的に進め、保護者に情報を提供していく。	A	B	新型コロナ感染対策による行事等 の中止により、面談等が十分に できておらず、学校での様子が保 護者に十分に伝わっていないと考 えられる。今後、webページや面 談等で情報提供を行っていきたい。	A	A	面談や行事への参加が十分にで きない中ではあるが、速やかな 情報の発信と学園、保護者、学 校とのさらなる連携を進めてい く。
	⑲関係支援機関や実習先、 保護者との情報交換を年間 3回以上実施し、その結果 として保護者の90%が、 関係機関等との連携が深ま ったと感じている。(高等部)	地域 ----- 進路指導部	○ケース会議、個別面談、実習 先との面談等に担任に対して進 路指導主事から助言、または必 要があれば同席する。	A	B	今後も引き続き、webページ、通 知、電話、連絡帳等により様子を 伝えたり、情報を早く伝えたりし ていく必要がある。	A	A	新型コロナの影響で実習、面談 等が中止になってしまうことも あったが、必要に応じ支援会議 等に参加し、助言等ができた。
	⑳関係機関と連携したデュ アルシステム(年間を通じて 学校・関係機関を併行して 行う就業体験)を実施し、対 象生徒の90%に変容が見 られる。(高等部)	地域・笑顔 ----- 進路指導部 高等部主事	○実施計画について教職員間の 共通理解を徹底し、関係機関と 綿密な打合せを行う。成果をweb ページで発信する。	A	B	1学期末に関係機関においての作 業の体験があったが、ほとんどの 生徒が働くことを意識し、あいさ つや返事を行ってできていた。 今後、作業学習の中でさらに働く 力を高めて行く必要がある。 また、より一層、デュアルシステ ム就業体験を強化していきたい。	A	A	生徒の変容は見られたがその成 果を十分に発信することはでき なかつた。webページで発信す ることも含め、生徒の変容を共 有することが必要である。